

株式会社サン・セロ

■事業

ボトルネックであった材料シート断裁工程の
自動化による大幅な生産性向上計画

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

Kawakami高速定寸カットシステム 型式：NK2000SP RE-5-5.2M(株)川上製作所製

企業理念

顧客志向のものづくりを心掛け、技術力、
競争力を強化し、経営基盤の安定を図る

時代のニーズに応じ主力製品を転換 塩ビの高級書類ファイルで業績伸長へ

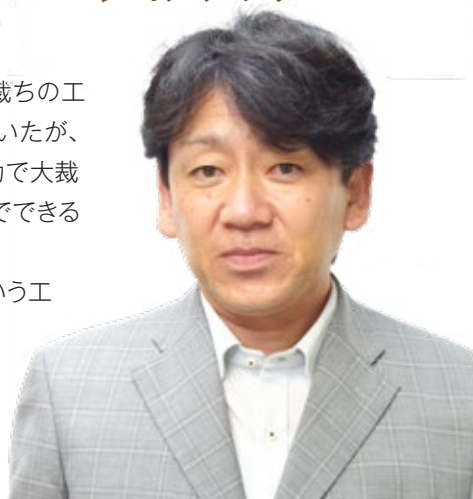
塩化ビニールとポリエチレンの製品加工・販売を展開している株式会社サン・セロ。1961年に食品向けセロハン袋を製造する「有限会社山陰セロファン商会」として、3代目となる三谷直弘社長の祖父正明氏が設立した。当時、食品は量り売りが主流だったが、時代を先取りして創業。その後、レコードが普及するとその外袋を、カラオケがブームになると歌詞カードファイル、さらには家庭学習をする子供が増えると、教材入れバインダーの製造を始め、時代の流れに対応して主力製品を転換してきた。2007年からは、不動産の契約書や宝石の鑑定書などを入れる塩化ビニール製の高級書類ファイル、ケースに力を入れ、業績を伸ばしている。

高級書類ファイルなどは多品種小ロットの受注が多く、その上、短納期化とコストダウンの要請も厳しく求められつつあった。製造リードタイムの短縮化のネックとなっていたのが、製品の材料シートの断裁。これまでは延長数十メートルあるロールの原反シートを、直径1・8メートルのタイコ巻き機に人力で巻き取り、それを引っ張り伸ばして、50～100センチの長さで大裁ちをしていた。この工程に係る時間を短縮するために、自動化を模索していた三谷社長は取引先の社長から「アパレルの反物を断裁する延反機が活用できるのではないか」とアドバイスを受け、メーカーに問い合わせ、さらに塩化ビニールなどのシートでテストを行った。可能との結果が出たことから、2019年11月に延反機の高速定寸カットシステム導入に踏み切った。

社員にチャレンジ精神が芽生え、モチベーションアップ 人手不足対策で更なる自動化目指す

大裁ちの後は、製品のパーツごとに人の手で切る小裁ちの工程がある。これまでは社員一人で大裁ちと小裁ちをしていたが、延反機を入れたことで、原反を機械にセットすれば、自動で大裁ちのカットをしてくれるため、大裁ち、小裁ちを同時並行でできることから、工程の生産性が50%改善した。

また、サン・セロのように断裁から印刷、加工、検品という工程を1社で行っている同業者は少なく、分業が多いため、大裁ちの受注も同業者から入るようになり、さらに他業種からの注文も増えている。新しい機械を導入したことで社員のモチベーションもアップした。「断裁する材料も増え、製品も少しずつ変わってきており、社員が



三谷直弘 代表取締役



1 導入した高速定寸カットシステム

2 高周波ウェルダーによる鑑定書ケースの製造作業

3 製品の不動産契約書や宝石鑑定書を入れる書類ファイル、ケース



ら『こういうものはできないだろうか』といったチャレンジ精神が芽生えつつある」と三谷社長は評価する。その一方で人手不足にも直面しており「工程の自動化をもっと進めたい」と更なるオートメーション化を目指している。

浮き出し箔加工技術で 製品の高付加価値化 高品質と納期短縮をアピールし受注獲得へ

10年ほど前から契約書入れや鑑定書の表紙の文字を金色や銀色で浮き上がらせる「浮き出し箔加工技術」を導入し、高付加価値化を図っており、これに文字だけでなく、イラストにも対応できるようになった。「品質と納期がしっかりしていれば、受注と価格はついてくる。納期は延反機導入で短縮化できた。わが社の強みをどんどんアピールしていきたい」と三谷社長は意欲を見せる。

■Company Data

株式会社サン・セロ



会社の全景

代表者名：三谷直弘
設立年：1961(昭和36)年
資本金：10,000千円
従業員数：22名
主たる業種：プラスチック製品製造業
本社：〒690-0021 松江市矢田町250-2
電話：0852-25-5823
FAX：0852-25-5825
URL：http://www.suncello.co.jp/

材料シートを大裁ちする高速定寸カットシステムを導入
断裁工程の自動化により大幅な生産性向上を実現